

地域・離島歯科医療実習 レポート

学籍番号： 4315100222

氏名： 高野 菜名実

実習先： 諏訪之瀬島

実習期間：令和2年 2月 28日 ~ 3月 1日

1. 環境

立地：北緯 29° 38' 18" 東経 129° 42' 50" 標高 796m (御岳・標高点)

諏訪瀬島は活火山島である。琉球弧の火山フロント上に位置する安山岩質の成層火山であり、島のほぼ中央部には現在活動中の御岳火口が存在する。1950年代から現在に至るまでストロンボリ式や小規模なブカルノ式の噴火活動が継続している。

諏訪瀬島は長径約 8.7 km、短径約 4 km、面積約 28 km²であり、吐噶喇列島を構成する島の中では中之島について二番目の大きさである。諏訪瀬島の周囲の海岸線のほとんどは急峻な海食崖で囲まれている。

動植物：マルバサツキ、ヤシャブシ群落 (南限)、リュウキュウチク、トカラヤギ などが見られる。

北西部の溶岩台地にはマルバサツキが群生し、春になると一面にピンク色の花を咲かせる。

吐噶喇列島は亜熱帯と温帯が交差する地域に位置しており、年平均気温は約 20°C、年間降水量は約 2700 mm である。

2. 社会的背景

御岳は過去に幾度となく大噴火を繰り返してきた。文化 10 年 (西暦 1813 年) の大噴火でほとんどの人家は消滅。全島民が避難したため、約 70 年間無人島状態だった。明治期になり、奄美大島出身の藤井富伝らが入植し開拓された。

昭和 40 年代には、既存の制度や価値観を否定し、自然への回帰などを提唱する「ヒッピー」と呼ばれる人々が移住し、都会から来た若者や海外からの移住者などと共同生活を行っていた。

人口：男性 32 名、女性 31 名 計 63 名 34 世帯 (令和元年発行：広報としま参照)

少し古いデータになるが、平成 22 年の時点で十島村の高齢化率は 37% を超えている。諏訪瀬島は、27% だった (平成 22 年発行：広報としま参照)。

産業：畜産業、農業、漁業

吐噶喇列島の中でも諏訪瀬島は漁業が盛んな島で、近海はカツオやサワラ、イセエビといった海の幸の宝庫となっている。畜産も諏訪瀬島の主要産業の一つである。3つの牧場があり、合計約 71 ヘクタールで子牛が育成されている。

鹿児島港から村営の「フェリーとしま」が週二便運航しており、所要時間は約 8 時間となっている。

3. 住民の生活

十島村では「トカラ列島島めぐりマラソン大会」が毎年秋に開催されている。村営定期船を利用して十島村の7つの島を走るというもので、毎年、全国から参加者を集めている。

夏にはトビウオ漁が盛んに行われている。ロウニンアジなどの大物が釣れることもあり、多くの釣り人が島を訪れるそうだ。

牧場が3つある諏訪瀬島では、火山の裾野で牛がのんびり遊ぶ牧歌的な風景も見られる。

食生活だが、諏訪瀬島には商店が一店だけ存在する。自動販売機は民宿二軒に設置されているそうだ。

諏訪瀬島では、9月に伝統行事である「十五夜相撲大会」が開催される。同世代の子供たちや若年層が本気で相撲を取る。相撲大会のあとは綱引きが行われ、夜には敬老会が開催される。ちなみに、令和元年度の敬老会では70歳以上の長寿を祝ったそうだが、十島村全体の合計は148人、諏訪瀬島は9人いらっしまったそうだ。

諏訪瀬島はスイカが特産である。毎年3月末から4月はじめに植え付けられ、生産者の方によると、昨年は軽トラック2台分の収穫があったとのことであった。

十島村では、健康づくりや地域活性のためスポーツ活動を盛んに行っている。ニュースポーツといい、技術やルールが比較的簡単で、子供から高齢者までいつでもどこでも容易に楽しめることを目的としたスポーツが行われている。各島でスポーツ推進員を決めているようである。

4. 医療供給体制

吐噶喇列島の有人各島には診療所がある。諏訪瀬島にも看護師が一名常駐していて、住民の看護にあたっている。医師は鹿児島赤十字病院から3か月交代で長期派遣され、中之島を拠点に上3島の巡回診療を行っている。下4島においては、鹿児島県立大島病院より巡回診療が行われている。そのほかにも、県特定診療科巡回診療による眼科、耳鼻科、皮膚科、歯科の巡回診療や、鹿児島こども病院医師のボランティアによる定期的な小児科巡回診療が実施されている。

例年5月頃には、「村営定期船をレントゲン健診便」として運用して、がん検診も行われている。

平成19年度に地域包括支援センターを配置し、平成25年度には「十島村看取り事務マニュアル」も作成された。

救急患者が発生した場合には自衛隊もしくは鹿児島県のヘリコプターによって鹿児島本土または奄美大島の病院へ搬送される。ドクターヘリ、鹿児島県防災ヘリ、自衛隊救難ヘリが利用される。

そのほかにも、妊婦健診船運賃等助成事業や十島村産後ケア事業、十島村こども医療費助成などといった支援もある。

実習概要

日付	内容
2/28 (金)	移動 23:00→7:10 鹿児島港→諏訪瀬島(船中泊)
2/29 (土)	諏訪瀬島の港についたらまずは民宿へ移動し、着替えなどを済ませ、すぐに診療所となる公民館へ移動した。 準備 7:30~9:00 移動診療車「こじか号」から公民館へ荷物を運び、ユニット、器具、材料などの準備を行った。廃棄物の分別方法や、診療に必要な基本セットの準備などについて教えて頂いた。



	診療 午前の部 9:00~12:00 民宿へ戻って昼食 診療 午後の部 13:00~17:00 こじか号と公民館の中で先生、衛生士さんが一人ずつ、分担して診療を行っていた。 口腔内診査、口腔内清掃、コンポジットレジン充填、簡単な抜歯などを見学、介助させて頂いた。 民宿にて宿泊
3/1 (日)	移動 9:20→18:20 諏訪瀬島→鹿児島港

振り返り記録

離島診療で学んだことの1つ目は、限られた在庫やスペースの中で診療を行わなければならないということだ。特にパーやスケーラーなどは無駄にすることなく最小限で効率よく使わなければならないと実感した。診療車の中はかなり狭いが、その中にレントゲンや手洗い場などもある。どこになにが収納されているのかなどを把握し、無駄のない動きをしないとならない。衛生士さんに色々教えて頂き、普段乗ったことのない診療車での診療は私にとって新鮮で楽しかった。

次に、できる診療が限られているということだ。1日という短い時間の中で患者全員の診療を終わらせなければならないため、1人の患者だけに長い時間をかけることはできない。実際、この日も患者さんはほとんど途絶えることなくいらっしやっただけで忙しかった。重篤な歯周病やう蝕になり、巡回診療では対応しきれない疾患にならないようにするためにも、予防が大切であることを改めて学んだ。衛生士さん曰く、諏訪瀬島の子供たちはこの離島診療で毎回フッ素を塗布していることもあり、う蝕が0(ゼロ)だそうだ。また、大人のほとんどが口腔内清掃を希望し、口腔内を清潔に保つ意識を持っていらっしやった。

患者さんの多くが家族ぐるみで受診され、全員が診療を受けていかれた。また、学校の養護教諭が生徒を連れてきてブラッシング指導を受けさせたりもしていた。島民が約60人と聞いていたが、思った以上に診療に来る子供の人数が多く、10人くらいは受診したのではないかと思われる。

残念だったことは、診療当日が土砂降りだったということだ。公民館の中と診療車の間を行き来するのが大変だった。衛生士さん曰く、台風で天気が大荒れであったり、患者が夜遅くに来たりして診療することもあったそうで、離島診療はそういった大変さもあることを知った。また、そんな天気だったので島の景色がほとんど分からなかった。帰る日は晴れていたため、港の綺麗な海と急峻な海岸崖、諏訪瀬島火山から立ち昇る煙などをみることができた。

島民のみなさんはとても温かい方々だった。今度改めて、諏訪瀬島の風景や食文化を堪能しに訪れたい。

